

No. 22  
Winter  
2000

建築・土木・造園の専門誌

季刊【ランドスケープデザイン】

# LANDSCAPE DESIGN

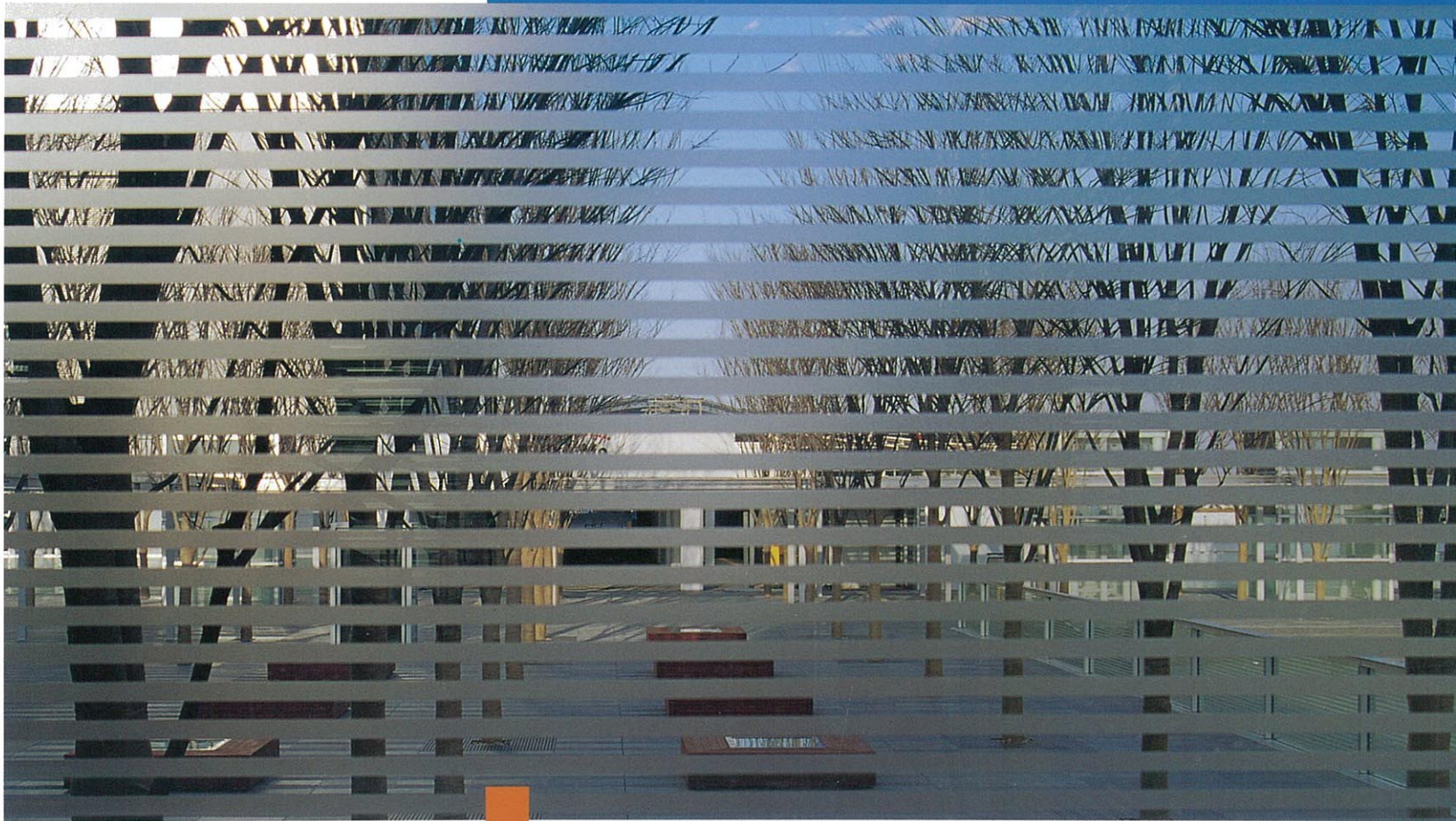
## 特集・ランドスケープワークス

21世紀の都市における新しい自然「空の森」…さいたま新都心 けやきひろば

緑が出迎える街……ウディタウン中央

水と杜が織りなす造形……シェルコムせんだい

「潮目の海」と「陸上の潮目」……アクアマリンふくしま



21世紀のランドスケープ国際シンポジウム

特別報告——ドイツ・ヘッセン州の旅

循環型社会講座——循環型社会における新市場創出とランドスケープ

現場の知恵袋——植物性発生材のリサイクル管理技術

国際会議参加レポート——ユニバーサルデザインの今日



平和の礎を取り囲むように同心円状に新平和祈念資料館が配置されている

LANDSCAPE  
WORKS 2000

# 沖縄県平和祈念資料館

文・写真/福村俊治 (建築家)



平和祈念公園全体図



左/平和の礎、平和祈念資料館、慰霊の広場が連結された現況 右/新平和祈念資料館着工前の平和の礎周辺

祈念資料館は平和の火を中心とした同心円状の建物で長さ220m、125の赤瓦屋根を持つ



昔の沖縄の集落の風景を思わせる赤瓦屋根群。集落の雰囲気を出すためにそれぞれの屋根は大きさ、形、色が少しずつ異なる



配置図。平和の礎の中央の広い径に慰霊の日(沖縄戦が終わった6月23日)の日の出の軸線



コンペに選ばれた際に提案した平和祈念公園全体整備計画案模型



最優秀案に選ばれたコンペ案の建築模型

世紀末の今春、沖縄県糸満市摩文仁に新しい「沖縄県平和祈念資料館」が完成した。

沖縄戦が終わって55年、日本復帰して28年が経つ。亜熱帯の島しょ地域に位置する沖縄はかつて、その気候風土を生かした独自の建築文化や街づくり・景観を持っていた。しかし、沖縄戦により、多くの人々の生命だけでなく、これらすべてを失った。戦後、かつての風土にあった素晴らしい建築文化や街づくりの手法はうまく伝承されることなく街が拡大し、復帰後の開発によって、山や海岸の風景まで移り変わりつつある。

悲惨な沖縄戦の記憶も風化しつつある。確かに各地に多くの慰霊碑があるが、これらは戦争経験者にとって戦争の悲惨さを思い起こさせ、平和の大切さを感じさせるものであっても、戦争を知らない若者たちに戦争の悲惨さを伝えるには十分でない。戦争を体験した人々も高齢になり、今しつかりと、一般住民を巻き込んだ沖縄戦の経緯と実相を伝えなければならぬ。

#### 旧沖縄県平和祈念資料館

戦後、沖縄戦終焉の地であった摩文仁の丘に各都道府県の慰霊碑が建立され、1975年には旧平和祈念資料館が県民個々の戦争体験を結集し、戦没者の追悼と沖縄戦の教訓を伝え恒久平和を訴えるために建設された。しかし、20余年経ち、狭隘・老朽化により、移転新築することとなった。

#### 平和の礎

沖縄戦終結50年の1995年、国籍や軍人・民間人の区別なく沖縄戦で亡くなった23万余の人々の名前が刻銘された「平和の礎」が完成した。それより2年前1993年にデザイン・アイデアコンペが行われ「グループりん」の案が山本正男(元沖縄県立芸術大学学長)審査委員長のもとで選ばれた。コンセプトは、「永遠の平和の心を沖縄の波にのせ世界に向けて発信すること」であった。旧平和祈念資料館の隣接地に、水平線の見える断崖近くに「平和の広場」をつくり、その中心に「平和の火」、その同心円状の周囲に刻銘板を波状に配置し、コバティシの緑陰で覆う配置となっている。また、中央軸として6月23日沖縄戦終結の日(慰霊の日)の日の出を主要な軸として動線計画がなされる。

#### 新沖縄県平和祈念資料館

旧資料館が沖縄戦を中心としているのに比べ、

新資料館は沖縄戦以前や敗戦後から米軍の沖縄支配と日本復帰までの歴史的経緯を踏まえた上で、平和を希求する沖縄の心を世界に発信し、未来志向で参加型の平和祈念資料館をめざした。延べ面積も旧資料館の約10倍、一万平方メートルを超える計画となった。

1996年「新平和祈念資料館」のプロポーザル・エスキスコンペが行われ、清家清(元東京工業大学教授)審査委員長のもとで、私たち「チーム・ドリーム」の案が最優秀賞として選ばれた。私たちの設計のコンセプトは「沖縄のかつての伝統文化を継承し、沖縄の将来の夢や平和を希求する心を形で表現すること」であった。

#### 風景をつくる建築

「平和の火」を中心に同心円状に配置し、設計者の個人的なデザインは極力排し、沖縄が長年培ってきた伝統文化の継承の表現として、小さく多様な赤瓦屋根をセットバックさせながら載せ、かつての沖縄の集落の風景の再現を試みた。また、「平和の礎」前面には礎や公園全体の休憩場所となるように、沖縄の民家によく見られる「雨端(縁側)空間」の柱廊やピロティなども設けた。つまり、控えめな外観の建築表現とすることにより、周辺の景観に溶け込ませながら、まともある「風景を造る」ことを狙ったのであり、私たちは建築のコンペをランドスケープのコンペに読み替え、その中で建築を設計したのである。

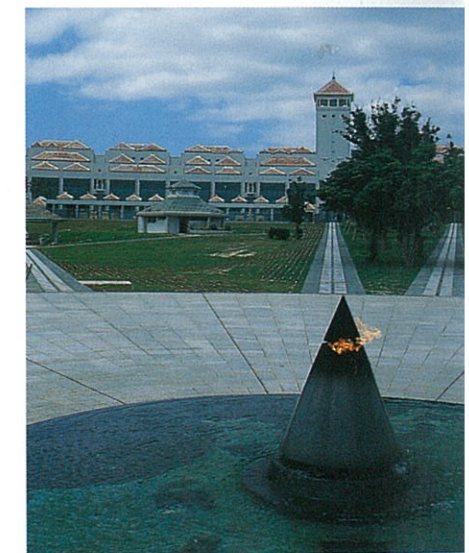
#### 夢と平和を形にした新しい沖縄建築

資料館のすべての諸室は同心円状に並んでいる。地下には収蔵庫と機械室があり、1階には平和の礎に面して長さ130m・幅12mの吹抜と列柱をも

つ湾曲した大きな開口をもつホールがある。このホールに面して1階には平和祈念ホール・子供プロセス展示室・情報ライブラリー・企画展示室があり、2階にはギャラリー・会議研修室・常設展示室があり、端部には海と礎の回廊という海が一望できる部屋がある。このように単純明快で将来の模様替えに対応できる平面計画とすると同時に、このホールを都市の街路を感じさせる新しい空間とした。モノトーンの色、白い列柱、高い吹抜、



沖縄戦で亡くなった23万余の人々の名前が刻まれた平和の礎



平和の火は、平和の礎と平和祈念資料館の中心であり、そこから放射線状に小径がのびる



柱廊は、強い日射しやわか雨から人々を守る伝統的な沖縄の雨端(縁側)空間。数多くのベンチが置かれている



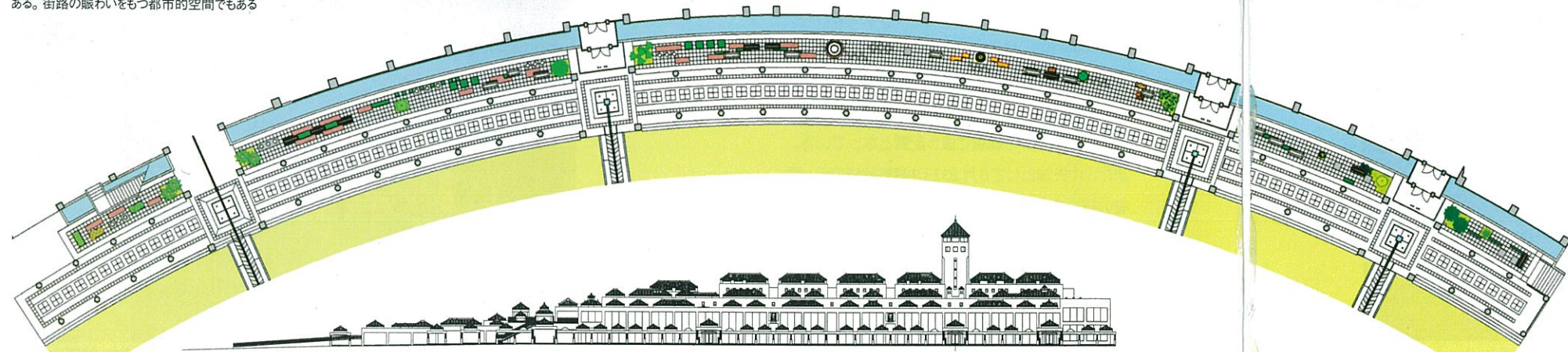
空中ブリッジ、ガラスの手すりのギャラリー、そして1階と2階を結ぶ段状ホールと緩やかなスロープがある。

大きな開口のガラスは沖縄の台風にも耐える25mm厚の特注大板ガラスであり、床や壁に埋め込まれたポイント飾りの石は128種もの石が使われ、照明も照明柱や間接照明、光天井など夜の建築雰囲気を盛り上げる工夫がされている。特にサインは、琉球ガラスや琉球石灰岩、赤瓦など沖縄の材料を使いながらモダンなデザインが随所に施されている。

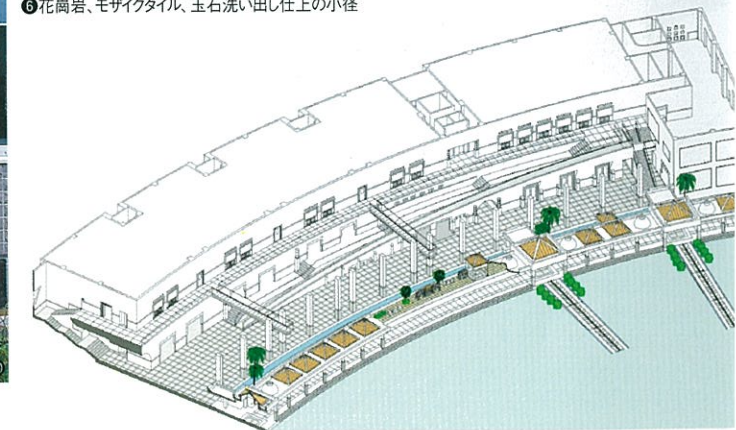
また、中庭や柱廊には、雨水を利用した噴水のある水路や、造形的なヒンプン、赤瓦葺の東屋、多種類の石を貼ったベンチ、琉球石灰岩や赤瓦、コンクリートブロック、花崗岩敷の多様な床仕上げ、そして、シーサーなど数々の沖縄の部品を並べてある。中庭の植栽も風雨に強い沖縄自生の草花と樹木が植えてあり、彩りを添えている。このように建築内部空間や中庭、柱廊には、新しい沖縄の建築空間を造った。

断崖近くに建つこの建物は、塩害・台風・強い日射しの厳しい気候条件の中に建っている。この地は55年前の激戦地であり、多くの死体がころがっていたとも聞く。この平和祈念資料館の高い展望塔や美しいホールから見る穏やかな沖縄の青い海や空、そして美しい風景を見るとき、誰もが将来への夢と平和の大切さを痛感せざるを得ない建物ができたと思う。平和の礎に身内の名前があり、この9月に亡くなった義理の母だった人は、コンペの際、沖縄戦の悲惨な話を私に伝えながら、「平和の礎の横にへんな建物を造ったら許さんからな」と、叱咤激励したことを今思い出す。

平和の礎に向かって開かれ湾曲した、吹抜と列柱をもつ長さ120mの長く広いホールは、平和の礎や平和祈念公園全体の人が集まる場である。街路の賑わいをもつ都市的空間でもある



- ① 細かく多様な部品と仕上げをもつ水路と中庭空間
- ② 平和の火と資料館を結ぶ象徴的な小径
- ③ 柱廊から平和の火へ通ずる小径の細い水路
- ④ 琉球石灰岩と赤瓦を使った多様なヒンプン
- ⑤ 赤瓦、琉球石灰岩、異形コンクリートブロックの中庭床仕上げ
- ⑥ 花崗岩、モザイクタイル、玉石洗い出し仕上げの小径
- ⑦ 琉球石灰岩あいた積みヒンプンとシーサー
- ⑧ 琉球松のベンチ
- ⑨ 琉球吹きガラスを使ったサイン
- ⑩ 記憶すべき夜の星座がエッチングされたエレベータードア



敷地面積 12,808.4㎡  
 工事場所 6,330.2㎡  
 延べ面積 10,180.0㎡  
 発注者 沖縄県  
 設計者 総括/福村俊治+team DREAM  
 建築/作真建築設計事務所 (担当:比嘉憲信、田上政尚)、二條設計 (担当:末吉淳一)、GROU P 24 (担当:伊盛勝)、JOU 設計 (担当:宮里乗彦)、平良進建築研究室 (担当:平良進)、空間計画 VOYAGER (担当:河野俊弘、前城功、美濃祐央、新垣直、西谷陽二、佐藤亘、IGNACIO R. GALINDEZ, Jr)  
 構造/金箱構造設計事務所 (担当:金箱温春、佐久間拓)、パス建築研究室 (担当:塩真孝彰)  
 設備/Cai設備 (担当:宮良洋三、楚南幸博、高良聡)  
 照明/LPA (担当:面出薫、稲葉裕)  
 サイン・織帳・椅子/HILOデザイン研究所 (担当:小畑広永、小畑侑子)  
 造園/トロピカルプランニング (担当:佐々木慶二)、トロピカルグリーン設計 (担当:大竹岩男)、沖縄緑化研究所 (担当:小島裕)\*は元所員  
 施工者 建築/大米建設JV、国場組JV、大城組JV